

「令和2年度国民体育大会第40回九州ブロック大会」に係る記者会見

■九州ブロック大会概要

- 毎年実施されている国民体育大会の九州代表を選出する予選大会。
- 九州各県で持ち回り開催されており、令和2年度は沖縄県で開催することとなっている。
- 大会は県内で30競技、県外委託開催で3競技、合計32競技。
※カヌー競技については、県内（スプリント）、県外（スラローム・ワイルドウォーター）の2ヶ所で開催される。
- 九州ブロック大会の日程及び会場（別紙）

■主催団体等

- 主催
 - ・公益財団法人日本スポーツ協会、九州各県、九州各県体育・スポーツ協会
 - 九州各県教育委員会、九州関係競技団体、会場地市町村及び教育委員会
- 後援
 - ・スポーツ庁、九州高等学校体育連盟、九州中学校体育連盟
- 主管
 - ・令和2年度国民体育大会第40回九州ブロック大会沖縄県実行委員会（会長：沖縄県知事）、沖縄県関係競技団体

■大会開催の可否について

- 各ブロック大会の実施の可否については、社会情勢を十分に考慮し、ブロックを構成する都道府県体育・スポーツ協会、都道府県競技団体及びブロック大会主催者（会場県・会場市町村等）において協議の上、決定することとなっている。（公益財団法人日本スポーツ協会国体推進部国体課通知より）

■大会開催の可否決定手続きについて

- （手続き①）沖縄県（文化観光スポーツ部スポーツ振興課）と沖縄県実行委員会事務局で大会開催の可能性について協議。
- （手続き②）沖縄県実行委員会にて大会開催可否について協議。
- （手続き③）九州地区体育・スポーツ協会連絡協議会にて大会開催可否について協議。
⇒ 大会開催可否の決定

■夏季・秋季大会（7月・8月開催）について

- 中止の経緯
 - ・令和元年6月に大会実行委員会を立ち上げ、開催地市町村や関係競技団体と調整しながら準備を進めてきた。
 - ・令和2年4月に入り、新型コロナウイルス感染が全国的に拡大したことに

より、当該大会の開催可否について、沖縄県と沖縄県実行委員会事務局と検討を進めてきた。

- ・当該大会の開催可否については、沖縄県実行委員会で県としての開催中止の方針を示し、その後、5月28日に九州地区体育・スポーツ協会連絡協議会臨時幹事会へ提案し、承認を得て開催中止を決定した。

○中止の理由

- ・医療体制や防疫的観点の立場から選手・監督・関係者の命・安全を最優先に考えた感染防止が重要であるが、感染防止対策を十分にとることが困難であること。
- ・新型コロナウイルス感染症が国民の生活、経済に甚大な影響を及ぼすとともに、現段階では同感染症拡大について完全な終息とはなっていないこと。
- ・九州各県から選手・監督・関係者の移動・宿泊に伴う感染拡大のリスクが高いことから、十分な医療体制の確保が確約できないこと。
- ・新型コロナウイルス感染症は、今後第2波、第3波の感染流行が予想されており、長期的な対策が必要であるが、十分な対策をとることが困難なこと。
- ・他の全国・九州レベルの大会開催状況 等

■九州ブロック大会冬季大会（12月開催）について

- 冬季大会のアイスホッケー競技については、開催会場の福岡市の状況及び九州各県の状況を考慮し、開催可否を決定していく。

■本国体に係る各競技の代表枠の選考方法

- 沖縄県の競技団体を中心に、九州各県競技団体と協議を進め、選考方法を決定していく。

■本国体に係る各競技の代表枠の決定時期

- 公益財団法人日本スポーツ協会国体推進部国体課と調整中である。